

# 教師海外研修 授業実践報告書

兵庫県立豊岡総合高等学校  
教諭 岩本 敏浩

## 0 はじめに

本校は兵庫県北部但馬地方に位置し、豊岡実業高校と豊岡南高校が発展的統合をし、豊岡総合高校となった。総合学科4クラス、電機応用工学科1クラス、環境建設工学科1クラスの学年4クラス。完全統合して2年目で昨年度1期生が卒業した。総合学科と工業科併設の珍しい高等学校であり、全国でも崇高である。田舎暮らしで純朴な生徒が多く、進学者は90%近くが自宅外からの通学となるため、経済的な面から国公立の大学等の希望者は多い。

私自身は前身の豊岡実業高校から14年目の勤務で、以前から海外での数学教育、コンピュータ事情に興味がありました。ALTの自国での数学の教科書や海外旅行で書店に立ち寄り、数学の本を購入し、教材として利用していました。

ひょんなことから、この教師海外研修に応募しました。決定通知が来たとき飛び上がらんばかり喜びました。赤道直下で暑いんだろう。現地の紅茶はおいしいだろうな。3食カレーに耐えられるかな、など悠長なこと言っていると、日が進むにつれて帰国後のレポートや報告会などの話がポツポツ出てきました。おいおいこりゃえらいこっちゃな。考えて見れば、そんな簡単に海外にいかせてくれるわけないですから。とりあえず現地ではデータの量、質を勘案し持ち帰えなければならぬと思っていた。授業もしていないのに報告のことを事前に考えなければならぬのもおかしい話なのだが、そんなに特別な報告も不可能であろう。普段の学校で実践の延長線のものといリーガルな行事の中での発表の2つを考え、以下のように報告を行った。

## 1 授業での実践

本校は総合学科4クラスを有する学校です。2学年においては23単位分が選択科目群に科目が分散されています。そのなかで国際関係学（総合学科2年次2単位16名履修）という科目があります。具体的に、「核兵器問題：イラン、北朝鮮の核開発」「領土問題：竹島をめぐる問題」「国際連合：国連改革と日本」などを学習する。帰国後一番初めの授業で9月上旬にスリランカの民族対立と歴史について行われた。

●実践日時 2006.9.14(木)2時間目

●実施科目、生徒 国際関係学（2単位） 総合学科2年生16名

●導入 1時間目の社会科の先生からのプリントからスリランカについて、民族対立についての復習

- 展開 ○ カースト制、階級格差について
- 仏教について
- 民族衣装について
- クリケットについて
- 挨拶について



- コミュニケーションについて
- シンハラ語、スリランカ人の英語について                      コロombo大学にて
- ゴミ問題について
- テロについて
- ODAとNGOについて
- IT事情
- エピソード集…ズボン購入、交通事情、蚊取り線香、コブラ出現など

●まとめ この授業で始めて知ったスリランカという国から異文化を理解させ、自分がまだ知りえない外国の国々があることを認識させる。特にカースト制や日本の仏教としきたりや作法も違うことで大乘仏教と上座部仏教の比較をさせる。また、これをきっかけに他国というものに興味関心が広がるよう指導したい。

1 時間目、2 時間目の連続授業で1 時間目を社会の先生が「第2 学年：国際関係学プリントNo. 16」(別紙-1 参照)「スリランカ」①スリランカってどんな国？②歴史と民族対立と題してシンハラ人、タミール人やテロの話の講義されました。

2 時間目は、私はバテックの襟付きシャツとサロマのスリランカ民族衣装を身にまとい講義をした。プレゼンテーションソフトでは確かに視覚に訴える面があるが、資料として生徒の手元に残らないため、色刷りのプリントを配布しました。(写真-1. 2. 3)

インパクトは、結構ありました。残暑厳しい中での講義ではあるが、生徒も一生懸命聞いていた。カースト制については生徒には馴染みのない事柄でもあり、職業差別なので単語や表現にも細心の注意を図り解説をした。そのときの配布資料は(資料-2)参照のこと。

現地で私は列車に乗るため駅で時間待ちをしていた。そのときに線路と波打ち壁との狭い間で少年がクリケットをしていた写真も掲載した。絵画部の生徒がこの写真を非常に気に入ってくれ、絵に描きたいと申し出た。快諾をしてこの画像を光沢紙で出力した。(写真-4)

現地の寺院を訪問し日曜学校及び小学校を視察した折その体験をしました。小学校訪問の時歓迎の儀式があり、小学生達が土下座をし、ブラッという葉っぱを差し上げ、我々の足に手を触れ畏敬の念を表してくれた。それを再現しました。社会の先生と事前に打ち合わせをしてそれを行った。ウッサワヤー (UTSAWAYA) 名前の儀式でそれに対応する日本語はない。土下座をして、ブラッ (BURAPH) という葉っぱを相対する人の前に掲げます。そして、その葉っぱを相手が受け取ると相手のつま先に触れ儀式は完了。それにより、私はあなたより身分が下であなたに敬意を表しますという表現です。体育館のような大きなところでは全体に伝わらない所作なので、少人数教育を行っている本校ならではの体験です。



写真-1



写真-2



写真-3



写真-4

## 2 学年通信

今年度4月より2学年副主任を拝命し、勤務に従事しています。学年の仕事の分担で学年通信の発行をしてきています。学年の先生は盛大な壮行会を開いてくれました。そして生徒、保護者に学年通信を通じて披露してくれた。(資料-3) 学年と相談のうえ、学年通信の裏面にスリランカ報告を①国家・仏教別紙参照②コミュニケーション別紙参照③ゴミ・環境別紙参照④IT事情とジャンル別に報告をした。(資料-4.5.6)

私は、昨年度は3年次の担任をしていました。そのときのクラスの生徒の弟が現在2年生に在学しています。学年通信を自宅に持ち帰り、家庭の会話のなかで私がスリランカに行ったことが話題に上がり、卒業生からも感想を聞かせてのメールが入ってきたりしました。

12月に学年通信に関するアンケートを行った。その質問事項で「学年通信で印象に残ったものは」に対し「スリランカ渡航記」と回答としてくれた生徒が大半であったことは、非常に嬉しかった。

## 3 情報モラルの指導の普及に関するフォーラム

12月15日「情報モラルの指導の普及に関するフォーラム」が本校で開催されました。(写真-5、6) 教科情報の教育実践報告であり、特に情報モラルの分野に絞り安全と倫理を中心に小中高の学校関係者、教育事務所、地域住民など約100名の参加がありました。

このフォーラムの実務者でもあり、実践発表でもありましたので、「スリランカIT事情」を5分程度紹介しました。内容としては、CADなどアプリケーションソフトが海賊版であること。著作権などの情報モラルの観点からも由々しき問題であること。国内でのメールの誹謗・中傷もあり、ネット犯罪も存在していることなどを報告しました。(別紙-7参照)



写真-5



写真-6

## 4 第3回多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー

8月11日標記のセミナーにレポーターとして参加しました。「あなたの海外体験を学校に活かす」というタイトルにJICA兵庫高田副主任と参加者のレポートがあり、研修旅行に行った経験を学校に還元するにはどうすればいいか。学校への還元の手法を学びあいました。

自分自身のレポートとしては、「学年通信発行」で画像を中心とした1週間の行程を紹介したもので作りました。あまりにも駄作なものであったので資料として残していませんが、当日は参加者の方々にカラー刷りでお配りできました。早朝から高田副主任が印刷をしてくださったおかげ



写真-7

げだと感謝しています。

また、同行した高等学校の先生のレポートは仏教についてでした。スリランカの上座部仏教を多岐に渡り、研修されていました。



写真－ 9

ここでウッサワヤーという名の儀式を行い、そのパフォーマンスをお手伝いさせていただきました。

もちろんレポートするときの服装は、バテックの襟付きシャツとサロマのスリランカ民族衣装でした。(写真－ 7. 8. 9)



写真－ 8

## 5 おわりに

### ・ O D A と N G O

政府または政府の実施機関によって開発途上国または国際機関に供与されるもので、開発途上国の経済・社会の発展や福祉の向上に役立つために行う資金・技術提供による協力であり、一方 N G O とは、継続的、自発的に社会貢献活動を行う、営利を目的としない団体である。今回の研修はそれぞれの得意分野で訪問先が特徴的であった。それはわれわれにとって誠にありがたいことでした。普通のツアーの観光旅行ではできないような様々な体験ができました。感謝です。

### ・ 戦争と平和

日本は、戦争放棄が憲法に明示されている。民族紛争もありません。北海道ぐらいの面積の島国で民族紛争が絶え間なくあり、街角には自動小銃を持ち、構えた若手兵士が要所に立つ。至る所での検問、爆破テロなども日本ではありえないことばかりです。個人的にもテロ現場に数十分前にいたことに驚きを感じました。戦争や民族紛争のない国に住み、その喜びを再認識しました。

ケラニア大学の日本語専攻の学生の感想文を読ませていただきました。8/6の広島原爆記念日に原爆記録フィルム上映会を受けての感想です。大学4年間日本語を学習し、かなり上手に日本語で表現されているのと同時に原爆を他人事と考えていないことに感銘を受けました。この資料を提供してくださった J I C A 中川氏に感謝します。

この感想文は、社会科に提供いたしました。今後の教材にしていだけるそうです。

### ・ 教育機関

公立学校、大学2校、日曜学校などの学校を訪問でき感謝しています。子どもたちとのふれあいの場や教育現場の視察など民間ツアーでは決して体験できない有意義なものでした。また、教科書も各学年のものを揃えてくれて有難かったです。英語版の教科書なので本校の生徒にも教材で使いました。贅沢を言えばシンハラ語の教科書はどうだったか見たかったです。

### ・ 総合的に

海外研修は、これが最後のチャンスと思い、応募いたしました。経費もリーズナブルでした。とても有意義で人生の中でも数少ない貴重な体験ができたと思っています。

第2次世界大戦で敗戦し、無条件降伏をし、戦争放棄を憲法でうたった日本。高度経済成長を経て世界の大国になった日本。そんな日本に生まれ、育った自分の環境に感謝し、

その喜びを職場や家族で分かち合えた事を感謝します。

JICAや青年海外協力隊・シニア隊の活動やPHDの研修生の生活ぶりを日本に広めるスポークスマンの役割を果たすためだけに渡航したわけではありません。当然生徒たちに理解させたことに手ごたえはありました。けど、授業や実践活動に活かすことは大切ではあるが、教師が生徒に国際理解と共に日本の良さを再認識として教えることの重要性を確認しました。

同行しました教育委員会の指導主事の方々と小中学校の先生がたと異国の地で過ごしたことは決して忘れることはできません。渡航前からの準備にお世話になり、現地では1週間寝食を共にし、綿密なる計画とその実践力のPHD協会の方々に敬意を表したい。豊岡総合高等学校尾花校長、井上教頭、藤井教頭においては、私のスリランカ行きを切望し、物心両面に渡り、支援してくれたことに感謝したい。最後になりましたが、JICA兵庫大石所長、高田副主任に私の渡航を推し進めてくれたことに敬意を表し、このレポートを締めくくりたい。